



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学大学院教育学研究科・公開シンポジウム

教育という視点からの 復興支援のあり方

東日本大震災から2年を迎え、子どもと子どもを取り巻く人々の心や身体の変化に伴って様々な問題が生じております。そういう中で、今後の中長期的な支援のあり方等について検討しなければならないと考えております。

これまで、東北大学大学院教育学研究科では震災後、復興に向けて、様々な取組をしてきました。文部科学省大臣政務官であり、教育の専門家である義家弘介氏を講師に迎えての基調講演会と、これまでの東北大学大学院教育学研究科の取組等を報告すると共に、今後、いかに被災地の園児・児童・生徒や教員への中長期的な支援を展開していくかについて、パネルディスカッションを開催し、参加者の皆様と共に考えます。



文部科学大臣政務官
義家 弘介氏

プロフィール

昭和46年3月31日生まれ。明治学院大学法学部法律学科卒。大学卒業後、母校である私立北星余市高等学校に教諭として採用される。その際の熱血指導が話題となり、TVのドキュメンタリー番組「ヤンキー母校に帰る」が放送され大反響となる。著書も精力的に出版し、その経験と実践に基づいた教育論は、教育界に一石を投じる。横浜市教育委員、内閣官房教育再生会議担当室長、参議院議員を歴任。現在、衆議院議員、文部科学大臣政務官。神奈川県厚木市在住。

PROGRAM

開会の辞

13:30~ 東北大学大学院教育学研究科長 **本郷 一夫**

ご挨拶

13:35~ 東北大学総長 **里見 進**

基調講演会

13:40~ 文部科学大臣政務官 **義家 弘介氏**

講演テーマ／復興支援における教育のあり方

パネルディスカッション

15:00~16:30 **本研究科の取組の紹介**

コーディネーター 教授 東北大学評議員 **柴山 直**

パネリスト 准教授 **石井山 竜平**

教授 **田中 真理**

教授 **宮腰 英一**

教授 **加藤 道代** (震災子ども支援室“S-チル”室長)

意見交換等

総括のコメント

文部科学大臣政務官 **義家 弘介氏**

開催日時

2013年 **3月20日** (水祝)

13:30—16:30

入場
無料

開催場所

ホテルメトロポリタン仙台(JR仙台駅隣)3F 曙の間

主催：東北大学大学院教育学研究科

教育という視点からの 復興支援のあり方

パネルディスカッション〈本研究科の取り組みの紹介〉

東北大学評議員 柴山 直

McGill大学(カナダ)心理学部研究員、東京工業大学助手、新潟大学教育人間科学部教授等をへて2009年より現職。

被災という学習経験、被災からの学習要求

九州大学助手、静岡大学講師、同助教授をへて2005年より現職。修士(教育学)。専門は社会教育行政論、地域生涯学習計画。編著書に『東日本大震災と社会教育 3.11後の世界にむきあう学習を拓く』(国土社、2012年)など。仙台平野の三本塚地区住民による地域再建の学習と行動に同伴しつつながら、震災経験が被災地にとって、どのような学習経験になっているのかを各地で検証している。

九州大学助手、静岡大学助教授、東北大学准教授を経て、2012年より現職。博士(教育心理学)。専門は発達障害学。臨床心理士。著書・論文に『関係のなかで開かれる知的障害児・者の内的世界』(ナカニシヤ出版、2003)、『集団遊戯療法におけるロール・プレイング』(金剛出版、2010)など。震災関連プロジェクトでは、障害児者の震災体験とニーズに関する調査研究、被災児童生徒への「食」を通じた心の支援、震災遺児の生活・学習支援を行っている。

教授 宮腰 英一 (教育政策科学講座)

※本プログラムの内容は予告なく変更になる場合があります。

教授 加藤 道代 (人間発達臨床科学講座、震災子ども支援室“S-チル”室長)

主催：東北大学大学院教育学研究科